

## 竜王町



本町は、県の東南部湖東平野に位置し、東に雪野山、西に鏡山という2つの山に囲まれています。この山々は竜神が祀られていたことから「竜王山」と呼ばれ、町名の由来にもなっています。総面積の30%を占める水田からは良質な近江米が生産されており、農業のまちとして知られているほか、埋蔵文化財や史跡、社寺など、歴史的遺産が豊富に存在するまちとしても名を馳せています。また、現在、名神高速道路竜王インターチェンジを核とした交通網整備による工業の活性化に取り組んでいます。

本町の下水道事業は、昭和61年度に琵琶湖流域下水道事業関連公共下水道の基本計画を策定し、昭和62年度に事業認可を受け下水道整備に着手しました。平成3年に供用を開始し、その後も逐次事業認可区域を拡大し事業を進めてきました。整備事業については概ね完了し、令和3年3月末現在の整備面積は421.1haになりました。水洗化率は91.2%に達しており、水質の保全と快適で衛生的な生活環境が確保できるようになりました。

また、平成30年度に下水道事業への地方公営企業法の一部適用をはじめ、令和元年度に「竜王町下水道事業ストックマネジメント基本計画」の策定、令和2年度に「竜王町下水道事業経営戦略」の策定に取り組むなど下水道事業の経営基盤強化に努めています。



苗村神社 楼門

今後は農業集落排水処理地域における公共下水道への接続や、管路の長寿命化を行い、持続可能な下水道事業に努めてまいります。



田園風景

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	421 ha
人口	10,064人
普及率	85.6%

## 彦根市



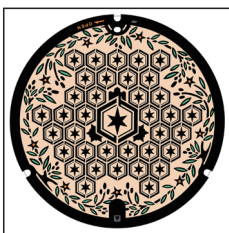
本市は、昭和12年2月に市制を施行し、琵琶湖東部の中心都市として発展を続け、国宝彦根城を中心とした貴重な歴史遺産が数多く存在する、歴史と伝統を生かした文化の香り高いまちであり、現在、令和6年度の彦根城世界遺産登録をめざしているところです。

また、平成19年に開催した「国宝・彦根城築城400年祭」のキャラクターとして誕生した「ひこにゃん」はご当地キャラクターブームの火付け役として、現在でも人気を博しています。

さて、本市の公共下水道事業は、琵琶湖流域下水道東北部処理区の関連公共下水道事業として昭和57年に事業着手し、平成3年より供用を開始して以降、今日まで計画的かつ効率的な事業展開と水洗化の普及促進のなかで積極的な整備拡大を進めてきました。

今後は、引き続き、未普及地域の解消に向けた整備を進めていくとともに、市南部地域に点在する農業集落排水事業区域の接続についても着手していく予定です。

また、これまでの約40年間の管渠整備により本市の総管渠延長は578kmとなりましたが、約1割が埋設から30年、約5割が20年を経過しており、適正なストック管理と、今後想定される改築更新に向けた検討を進めていく必要があります。



本市では、令和2年度より公営企業会計方式を導入しており、更なる下水道事業の計画的かつ健全な事業推進に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えています。



国指定名勝 玄宮楽々園と国宝 彦根城天守



令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	2,314 ha
人口	96,262人
普及率	85.8%

## 長 浜 市



本市は、中央に琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と、水鳥が集う湖岸風景が広がり、優れた自然景観を有しています。

また、戦国時代を偲ばせる長浜城跡・小谷城跡、賤ヶ岳・姉川の古戦場をはじめ、多くの歴史文化資産を有しています。

本市の下水道整備は、昭和57年に着手し、平成3年から順次供用を開始し、平成19年をもって概ね全域の整備が完了しています。主たる経営は「施設の維持管理」に移行しており、今後は「施設の改築更新」に対応していく必要があります。

本市の下水道は古いものでは事業着手から30年以上が経過し、管渠や処理施設で今後老朽化が益々進行していきます。特に、農業集落排水施設は、市内の広範囲に点在しており、単独処理による不採算経営、老朽化の進行と、それに伴う修繕費の高騰が懸念



余呉湖



長浜曳山まつり

されています。将来にわたって下水道事業を健全に運営するためには、農業集落排水施設の事業集約による効率化と経費削減を図るとともに、下水道施設については長寿命化を見据えた計画的な改築更新を図り、事業継続性を確保する必要があります。持続可能な下水道事業を安定的に経営していくため、各種計画に基づき、農業集落排水処理施設を公共下水道への接続等の施策を推進しています。

### 令和2年度実績 (流域下水道関連)

面積	3,560 ha
人口	94,874 人
普及率	81.5 %

## 米 原 市



本市は、豊かな自然ときれいな水の郷、そして交通の要衝として栄えてきました。街道沿いには、昔のたたずまいを感じさせる柏原宿、醒井宿の町並みや、番場の忠太郎で知られる番場宿、中山道への往還や湖上交通で賑わった北国街道の米原宿があり、関西、東海、北陸の交流を促し、古くから物資の運搬や人々の旅路を支えてきました。また、豊かな自然に恵まれ、伊吹山を望む雄大な景観は市民や道行く人にも愛されています。一方、市政では、旧庁舎を活用した分庁方式で市役所を運営してきましたが、統合庁舎である市役所本庁舎が米原駅東口横で、未来につながる新たな拠点として令和3年（2021年）5月6日に開庁しました。



伊吹山と三島池（池下地先）



醒井宿（醒井地先）

本市の公共下水道事業は、昭和62年から事業着手し、平成22年度末に既存集落の整備は概ね完了したため、維持管理を中心とする事業形態に移行しています。今後は農業集落排水処理地域の公共下水道への接続および管路の耐震化や広域避難所へのマンホールトイレの整備を進めていきます。また、平成30年度から公営企業法の適用を受けた事業運営とし、経営状況の把握と分析を行いながら、今後進める更新事業を見据え、継続的な健全経営と基盤の強化が図れるよう、努めてまいります。

### 令和2年度実績 (流域下水道関連)

面積	1,768 ha
人口	34,843 人
普及率	90.6 %





## 愛 荘 町

本町は、東西約13km、南北約7km、総面積は37.97km<sup>2</sup>で滋賀県全体の約1%を占めています。標高は最も高い南東部で約700m、低い北西部で95m。町の南には一級河川愛知川が、中央部には一級河川宇曾川や岩倉川が流れており、古くから水との関係が深く、豊富な地下水に恵まれ、飲料メーカーや染織工場などの企業が立地しています。

また、近畿圏、中部圏、北陸圏の結節点に位置し、中山道をはじめ古くから交通の要衝であり、国道8号、国道307号、名神高速道路が通り、湖東三山スマートインターチェンジも開設され地理的優位性を有しています。

本町の下水道は、本町の合併前「旧愛知川町」「旧秦荘町」ともに平成元年1月に基本計画を策定し、琵琶湖流域下水道東北部処理区の地域関連公共下水道として認可を取得しました。平成9年4月1日には供用開始を行い、現在（令和2年度末）の下水道普及率は99.2%に至っています。

令和2年度には愛荘町下水道施設ストックマネジメント計画を策定し、将来に渡り下水道施設の流下機能を維持するため、点検・調査を確実に実施し、適宜・適切な改築・修繕を行っていくことで下水道サービスを継続的に提供していきます。



今後も町民の快適な生活環境を確保し、公衆衛生の向上、琵琶湖の水質保全のため公共下水道の維持管理、普及に努めてまいります。



金剛輪寺

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	939 ha
人口	21,198人
普及率	99.2%



## 豊 郷 町

本町は、滋賀県の東部、国宝彦根城で有名な彦根市の隣に位置し、町の面積が7.8km<sup>2</sup>、人口約7,300人の滋賀県で最も小さい町です。

地理的には、湖東平野の中央に位置し昔から稲作が盛んに行われ、町の中央を横断する旧中山道の高宮宿と愛知川宿との中間に位置し、近江商人の発祥地のひとつとして数えられており、現在の伊藤忠商事、丸紅の創始者である伊藤忠兵衛氏を筆頭に、あけぼの印缶詰の元祖となる星印缶詰を生み出した藤野喜兵衛氏、フランスの勲一等を授けられヨーロッパの芸術界で有名なバロン薩摩こと薩摩治郎八氏など数々の近江商人の出身地でもあります。

本町の下水道事業は、平成2年度から事業に着手しました。平成9年度から順次供用開始を行ってきており、平成16年度には下水道事業計画区域363.8ha、町の全面積46.6%を整備し終えました。

また、令和2年度に、上位計画である琵琶湖流域下水道の全体計画見直しに伴い、事業計画期間を5年間延伸し、事業計画区域の拡大を行いました。さらに、災害対策として、重要な幹線等における下水道施設の耐震化を進め、耐震化率は令和5年度には100%になる見込みです。さらに、激甚化する降雨に対し、浸水被害を最小化することを目的に、浸水対策にも着手しているところです。



豊郷小学校旧校舎群：「東洋一の小学校」



伊藤忠兵衛記念館：「初代伊藤忠兵衛の本家」

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	373 ha
人口	7,310人
普及率	100%

## 甲 良 町



本町は、琵琶湖の東岸に広がる湖東平野に位置しています。鈴鹿山脈に源を発する犬上川の扇状地帯に早くから拓けた地域で、その長い歴史を物語る数多くの遺跡や文化財を保有しています。また、犬上川の豊かな水量と良質な水を町内に引き込み農業用水、生活用水、防火用水などに利用し、水と共に暮らしてきた町です。

「せせらぎ遊園」をキャッチフレーズとする本町にとって下水道事業によって、生活雑排水の用水流出が遮断でき、きれいな水が甦ったことは、町民みんなのほこりです。平成2年度から事業に着手し、平成10年5月に一部地域から供用を開始し、令和3年3月末現在の整備面積は402.8ha、整備率は87.9%になっています。今後も継続して下水道普及率の向上に努めてまいります。



藤堂高虎ふるさと館「和の家」



在士八幡神社



パイプライン噴出し口

令和2年度実績  
(流域下水道関連)

面積	403 ha
人口	6,744人
普及率	99.9%

## 多 賀 町



本町は、滋賀県東北部の犬上郡に属し、霊仙山や御池岳をはじめとした緑濃い鈴鹿山系の山々に抱かれ、美しい森林や芹川、犬上川の清流が広がる自然の宝庫の町です。

本町は、『輝く人、自然、歴史・文化で織りなす多賀の未来』を合言葉に、豊かな自然や古代より伝わる遺跡や文化遺産を誇りとしてきました。多賀町独特の変化に富んだ地形や石灰岩を含んだ近江カルストは、色とりどりの動植物を育みます。また、日本神話にも登場する多賀大社をはじめ、古くから村々が点在していたことがわかる古墳群、社務所庭園が国指定名勝となっている胡宮神社など、数々の名所が歴史の息吹を感じさせます。これらのような自然と文化と共に生きる暮らしをめざし、みどりの輝き、文化の輝き、人の輝きが、まちの未来につながるよう、住民が一体となり、魅力のあるまちづくりに励んでいます。

下水道事業は、琵琶湖流域下水道4処理区の中の東北部に属し、多賀町流域関連公共下水道事業として昭和63年に事業認可を受け、平成元年度より工事に着手しました。平成7年4月より人口集中地域から一部供用開始し、令和2年度末には下水道普及率89.9%、水洗化率95.5%となっています。多賀町ひいては滋賀県の豊潤な自然を守り、次世代に伝えていくためにも、一層の下水道の普及と、適正な維持管理に努めて参ります。



アケボノゾウ化石



霊仙山から望む琵琶湖

令和2年度実績  
(流域下水道関連)

面積	337 ha
人口	6,775人
普及率	89.9%



## 高 島 市



本市は、琵琶湖の西部に位置し、平成17年1月1日、マキノ町、今津町、朽木村、安曇川町、高島町、新旭町の5町1村が合併し、新市高島市として踏み出しました。

古来より当地域は京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝として栄え、中でも陸上交通は比叡・比良山麓を湖畔に沿って走る西近江路や、塩漬けされた鯖を運搬する街道であったことから鯖街道と呼ばれる若狭街道が主となり、これらの街道と大津方面への湖上交通の拠点である港町や宿場町として栄えてきました。

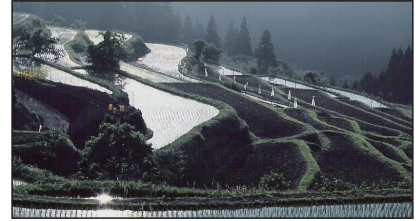
また、近江聖人と称されていた日本陽明学の始祖、中江藤樹先生生誕の地として知られているとともに、数多くの高島商人（近江商人）を送り出した土地柄でもあります。

本市の公共下水道事業は、琵琶湖流域（高島処理区）関連公共下水道として、平成元年度に事業に着手し、平成9年4月1日に今津および新旭地域の一部で供用を開始する中、平成23年度にほぼ整備が完了しました。



また、朽木地域は平成4年度に単独特定環境保全公共下水道事業に着手し、平成9年10月1日に一部供用を開始し、平成11年度で整備が完了しました。

現在では、農業集落排水処理施設の公共下水道への接続を順次行い、維持管理費の低減を図りつつ、公共用水域の水質保全と快適な住環境の実施を図っています。



春の畑の棚田（高島）



新緑のメタセコイア並木（マキノ）

令和2年度実績 （流域下水道関連）	
面積	2,053 ha
人口	40,953 人
普及率	89.8 %

## コラム 浄化センターの土地の歴史①

下水処理場は広い敷地を有していますが、出来るまではどうなっていたのか、土地の歴史を振り返ります。

### 湖南中部浄化センター

湖南中部浄化センターは琵琶湖を埋め立てられた人工島にあり、島の名前となっている矢橋帰帆島は、近江八景「矢橋の帰帆」から来ています。

東海道の草津から大津への道のりは、通常であれば瀬田唐橋を渡るルートなのですが、草津の矢橋港から大津までショートカットする航路が開かれてきました。



江戸から東海道を長期間かけて旅してきた旅人は、もうすぐゴールの京都という草津から大津まで、短い船旅を楽しんだのでしょうか。「急がば回れ」の語源は、風が強く船の出ない日もあり、短縮するつもりが結局陸路の方が早かった、と、この地から来ているという説があります。



旧矢橋港付近に残る常夜灯

また、織田信長や徳川家康など天下を取った武将もこの航路を利用したようです。

もっと古くに遡ると、帰帆島を造成する際の遺跡調査で、中間水路の北部あたりから縄文式土器が多く発見されました。昔の水位は現在とはだいぶ異なるため、縄文集落がこの付近にあったのではないかと見られています。

このことから帰帆島には遺跡の広場が整備されていました。竪穴式住居や高床式倉庫が再現されていましたが、老朽化により維持が困難になり、現在は撤去されています。



### 湖西浄化センター

大津市苗鹿の湖西浄化センターのあった場所は、昔の写真を見ても、農地だったようです。ただ、大津市のこのあたりは、浄化センター西部の丘陵地には古墳群が発見されるなど、古くから栄えた地域だったと思われます。



また、浄化センターの前を通る旧国道161号は、京都と北陸を結ぶ西近江路（江州街道）であり、浄化センターより少し北に行った交差点付近には、常夜灯が残っています。



苗鹿を「のうか」と簡単に読める人

は少ないのではないのでしょうか。苗鹿の在所の中に那波加神社があり、そこから来た地名ではないかと言われています。また、那波加神社の祭神である天太玉命（あめのふとだまのみこと）が老翁となり、鹿が稲（苗）を負って手伝いをした、という言い伝えから、苗鹿という漢字になったと言われています。

航空写真の左下に、大きな建物が映っているのが分かるでしょうか。これは昭和45年の大阪万博を目指して建設されたホテルが、資金難のため中断、未完成のまま20年以上放置され、通称「幽霊ビル」と呼ばれた建物です。

平成4年5月、このビルを日本で初めて爆破解体するという事で注目が集まりました。海外映像のように内部に倒壊するのではなく、安全を取って琵琶湖側に倒す方法が取られ、数秒で倒壊しました。

